



姫路城 たきのう

た
き
ぎ
の
う

番組

能

13

風

福 杉

知 豐

三

10

10

日時 2025年5月16日(金)午後6時00分始
午後6時30分 朝日放送新潟放送局

午後5時00分～親子教室発表会を開催

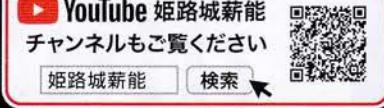
場所

姫路城 三の丸広場 (特設舞台)

雨天の場合は、姫路市市民会館にて開催

※席数が限られている為、貢助に招待券をお持ちの方からの優先入場となります。

ホームページ <http://himeji-takiginou.org/>



入場無料

「主 偶」姬路莊能春恭合

【主推】姫路新能拳貢云
【協議】江崎橋五金、姫路能源企、十四橋五金、大倉萬能企

助 貢 江崎福士云・姫路能樂云・上田觀正云・大信車月云
後 拝 お城まつり奉贊会・兵庫県・姫路市・姫路市教育委員会・姫路市教育会議所

後援 お城よつ半賀云・兵庫県・姫路市・姫路市教育委員会・姫路商工會議所
公益財団法人姫路市文化国際交流財団・姫路信用金庫ひめしん文化会



二案内図 旧姫路駅・川陽電鉄姫路駅から徒歩15分

■題字：凌云秀姫路市長 摺高

● 観世流能「松風」

ある秋の夕暮れのこと、旅の僧が須磨の浦（現在の神戸市須磨区付近）を訪れます。

僧は、浜辺にいわくありげな松の木があることに気づき、土地の者にそのいわれを尋ねたところ、その松は「松風」「村雨」という名をもつふたりの若く美しい姉妹の旧跡で、彼女らの墓標であると教えられます。僧は、経を上げてふたりの靈を弔つた後、一軒の塩屋（塩焼き小屋）に宿を取ろうと主を待ちます。そこに、月下の汐汲みを終えた若く美しいふたりの海女が汐汲車を引いて帰ってきました。

僧はふたりに一夜の宿を乞い、中に入つてから、この地にゆかりのある在原行平の詠

跡の松を弔つたと語りました。

すると女たちは急に泣き出してしまいます。僧がそのわけを聞くと、ふたりは行平から寵愛を受けた松風、村雨の亡靈だと明かし、行平の思い出と彼の死で終



能「松風」

そして互いに我慢すればすむことだと仲直りし、めでたく連れ立つて家路をたどります。

1人が文言をいい、1人がそれを書き記していくうちに、内容が妻子の将来に及ぶと、2人とも感極まって泣き出してしまいます。

わつた恋を語るのでした。

姉の松風は、行平の形見の狩衣と烏帽子を身に着けて、恋の思い出に浸るのです。村雨はそれをなだめるのですが、恋に焦がれた松風は、その恋情を託すかのように、狂おしく舞い進みます。やがて夜が明けるころ、松風は妄執に悩む身の供養を僧に頼み、ふたりの海人は夢の中へと姿を消します。そのあとには村雨の音にも聞こえた、松を渡る風ばかりが残るのでした。

大きな物音に驚いた寺男が、僧のところに駆けつけます。僧から話を聞いた寺男は、かつて釈迦が亡くなる時にも足疾鬼が現れ、舍利を取つて逃げたという故事を語ります。



狂言「文山立」

その舍利は韋馱天によつて取り返されてのち、泉涌寺に納められました。今まで奪われたのは、その時の舍利です。

今度も、舍利を奪還しようと韋馱天が現れます。韋馱天は天上世界の隅々まで足疾鬼を追い回し、下界へと追いつめて舍利を取り返します。捕えられた足疾鬼は力を失い、どこかへ消えていつてしましました。



能「舍利」

怪しげな雰囲気の男がやつてきます。男は舍利が見たいと言つて僧とともに舍利を拝み、そのありがたさを尊びますが、突然男の顔色が変わります。

男は、自分は昔、舍利を奪つた足疾鬼の執心と名乗り、みるみるうちに鬼の姿に変身すると、舍利を奪つて天井を蹴破りどこかへ飛び去つてしましました。

大きな物音に驚いた寺男が、僧のところに駆けつけます。僧から話を聞いた寺男は、かつて釈迦が亡くなる時にも足疾鬼が現れ、舍利を取つて逃げたという故事を語ります。

● 大藏流狂言「文山立」

2人の山賊が、ねらつた旅人を逃がしてしまつたことから仲間割れし、果たしあいになりますが、見物人のいないところで死ぬのは犬死にも同然、書き置きをして死のうと争いを中止して、矢立を取り出して遺書を書こうとします。

1人が文言をいい、1人がそれを書き記していくうちに、内容が妻子の将来に及ぶと、2人とも感極まって泣き出してしまいます。

● 観世流能「舍利」

出雲国（島根県）の美保の関からはるばる都へやつてきた旅の僧が京都東山の泉涌寺へ参詣します。

この寺には牙舍利と呼ばれる釈迦の遺物（歯）が宝物として伝わっています。運のいいことに、

今日は牙舍利が一般に公開される開帳の日にあたります。

寺を案内してくれた寺男にすすめられた僧は、舍利が納められた舍利殿を参拝することに決めます。僧が舍利を前に感激していると、